



大 銀 杏

喜多方市立慶徳小学校 学校だより
令和元年7月9日(火) 第6号
発行責任者 校長 石田 秀喜

【教育目標】心豊かで、主体性のある児童の育成 ～育てよう夢 伸ばそう個性 伝統を受け継ぐ慶徳の子～

木は寸法で組まず 癖で組む

「1200年前に建てられ、今も美しさを持ち続けている法隆寺からさまざまな先人の技と知恵を教わってきました。職人は、一つ一つの材料の違うものを前にして、どうするかを経験と勘で判断します。」

法隆寺の金堂や薬師寺伽藍などの復興や再建を果たした宮大工の西岡常一さんの話です。それによると、木は生育の方位のままに使うということで、南に生えた木は南側に、北に生えた木は北側に使うのだそうです。また、堂塔の木組みは、寸法で組まずに木の癖で組むということです。左にねじれを戻そうとする木と右にねじれを戻そうとする木を組み合わせ、癖を封じて全体のゆがみを防ぐのだそうです。

人も同じように、皆違って、それぞれが素晴らしい個性をもっています。「育てよう夢 伸ばそう個性 伝統を受け継ぐ慶徳の子」の育成をスローガンに、本校では、一人一人の個性や持ち味を、互いに認め合い、高め合う集団づくりに力を入れています。授業においても、互いの考えを出し合い、練り合いながら、いろいろな課題について協働して解決していくといった学習活動を大切にしています。あすは、学期末授業参観です。そんな子どもたちの姿をご覧ください。



伝統を受け継ぐ 慶徳っ子 ～「慶徳御田植祭」～

半夏生の7月2日(火)、「慶徳御田植祭」が盛大に行われました。新元号の令和となり、しかも国指定になって初の御田植祭という記念すべき年に立ち会えた喜びを感じながら、子どもたちは、笛や早乙女、御旗・五色旗持ち、白狐、巫女・稚児、下学年は「えんやー」のかけ声とともに太鼓台を引くなど、全校生が最後まで真剣な態度で臨み、祭りを大いに盛り上げました。地域の歴史と伝統を知り、地域の一員として地域の行事に積極的に関わることの大切さと素晴らしさを児童一人一人が実感したようです。

これまで、笛の演奏や早乙女踊りの指導をあたってくださいました保存会の皆様方をはじめ、慶徳公民館の皆様、市教育委員会、そして保護者の皆様方に、改めて感謝申し上げます。

